

# 第1回 蓄電池産業戦略検討官民協議会 議事要旨

日時：2021年11月18日

場所：オンライン会議

## 議事要旨

資料1～3につき、事務局より説明

資料4につき、一般社団法人電池サプライチェーン協議会より説明

資料5につき、一般社団法人電池工業会より説明

メンバーからの発言要旨は以下の通り。

### 【総論】

- ・ 車載用のみならず系統用、産業用、家庭用においても電池の重要性は増している。
- ・ 戦略では、短期的にすぐ対応すべきことと中長期的に対応すべきことを整理する必要。
- ・ 日本として何を強みにして勝ち筋を描くのが重要なのであって、単なる施策のホッチキスに終始してはならない。
- ・ 戦略で優先すべきこと、ターゲットなどを明確にすることが必要。
- ・ 諸外国があらゆることをやっている中、国としてやるべきことを全てやらないと国内から産業が無くなる。

### 【安定的なSC、生産基盤】

- ・ 投資が大型化している中で、民間企業だけでは巨額な投資になかなか踏み切れない。見極めは必要だが政府の支援が必要。
- ・ 材料への投資は電池製造以上に準備期間を有する、一方資源の確保もやっていく必要があり、材料メーカーの悩み。日本に材料生産を回帰させたい。資源確保、投資補助など国に考えて頂きたい。
- ・ 加えて製造プロセスの低減も必要でその観点で電気代、特に再エネコストの低減など国として進めて行くべき。
- ・ 諸外国企業と比較しても開発している内容などに大きな違いはない。しかしそのスピードに大きな差があると感じる。電池メーカーのみならずSC全体でスピード感を上げていけば、コスト低減にも効いてくるのではないかと。

### 【市場拡大、制度】

- ・ 需要の拡大が見えていないなかで投資判断をする事は困難。したがって国内市場の拡大は必須。
- ・ 加えて、海外マーケット国際競争に勝つための取組も検討が必要。
- ・ 欧州における環境規制によりマーケットから締め出される懸念。CFP算出の具体化などは足並みをそろえてやっていくべき。
- ・ 電池を使った調整力市場など、電池システムとして使い、新ビジネスの観点の検討も重要。

- ・売り切りビジネスからの脱却も必要。リユース、リサイクルなどのスキームや電動バイクではバッテリーの交換ビジネスも出てきている。業界の垣根を越えた議論も必要。

#### 【技術開発、人材】

- ・一足飛びに全固体や次世代に傾倒するだけではなく、現行の液LIBについても開発が必要。
- ・日本は海外に比べ電池の技術者を目指している人が少ない印象。長い目で見た場合人材育成についても強化していくことが必要。
- ・他方、日本の電池研究は世界的に見ても未だにトップレベルを維持。研究者同士のネットワークもできている。このような基盤を上手く活用すべき。

#### 【リサイクル、リユース】

- ・循環型社会の実現に向けて、リサイクル、リユースも重要な観点。スピード感を持って対応すべき。